

ellipse

[エリプス]

TOPICS

お茶の水学術事業会設立 20 周年記念特別寄稿

「お茶の水女子大学の教育・研究環境整備

～学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する～

(2) オールお茶の水体制の構築と財政基盤の確立

室伏きみ子 氏

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT

夢のつばさ♥プロジェクトニュース

INFORMATION

イベント情報
事務局よりお知らせ

お茶の水学術事業会設立20周年記念特別寄稿

お茶の水女子大学の教育・研究環境整備

～学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する～

(2) オールお茶の水体制の構築と財政基盤の確立

室伏きみ子 (むろふしきみこ)



【プロフィール】

お茶の水女子大学・同大学院修士課程修了、東京大学大学院博士課程修了、医学博士
 お茶の水女子大学名誉教授、第16代学長（2015年4月—2021年3月）
 「夢のつばさプロジェクト」企画担当、お茶の水学術事業会会員（元・理事）
 日本学術会議会員、日本医療研究開発機構監事、NHK経営委員/監査委員、文部科学省科学技術・学術審議会
 委員/中央教育審議会委員、経済産業省産業構造審議会委員/独立行政法人評価委員会委員、内閣府男女共同参
 画会議議員、(株)プリヂェストン社外取締役などを歴任。フランス共和国教育功労章受章、文部科学大臣表彰科
 学技術賞受賞、男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞、ストラスブール大学名誉博士

1875年の女子師範学校としての創立以来、お茶の水が様々な波を乗り越えて、「国立の女子大学」であり続けることが出来たのは、多くの先輩たちが積み重ねて来られた大きな成果によるものであることは言うまでもありませんが、2004年の法人化は、国立大学にとって、1949年の新制大学への移行以来の大きな出来事でした。

法人化前後の大改革と本田和子学長

前号でご紹介しましたが、国立大学の法人化によって、99の国立大学が統合・合併されて86大学となり、その後20年近くに亘って、国からの予算も毎年削減されて来ました。物価の上昇や消費税の増額などが追い打ちをかけて、国立大学を巡る状況が年々厳しくなる中で、それぞれの大学には、研究と教育における独自性が求められ、間断ない改革が要請されて来ました。

そうした厳しい環境下で、本学初の女性学長として就任された本田和子（ますこ）先生は、法人化に向けて佐藤保前学長が進めて来られた女性研究者支援などの事業を引き継がれ、さらに、女子教育の将来を見通した英断と果敢な挑戦を進められました。この大きな変革の時期に、本田先生を学長にお迎えした教職員たちは、最善の選択をしたと思っています。本田学長なしには、今日のお茶の水女子大学はなかったでしょう。そして、本田学長を信頼し、共に法人化を乗り越えた教職員の努力の結果、お茶の水が独立した国立女子大学として、今日まで存在し得たのだと思います。当時私も、執行部メンバーの一人として、本田学長の許で働きましたが、

と一緒に理事・副学長をお務め下さった松本勲武先生、市古夏生先生（故人）、山本秀行先生との執行部での活動は、目が回るほどの忙しさで、気が付くと空が白み始めていたということも少なくありませんでした。学生達のため、女子教育のためにと、誠心誠意ご尽力下さっていた皆さまと一緒に、高邁なミッションの実現に向けて頑張っているという実感が持てて、楽しい日々でした。ただ、あまりの忙しさに自宅に帰れないことも多かったものですから、この時期に、大学の近くに住まいを移しました。



前列向かって左から 松本勲武理事・副学長、市古夏生理事・副学長、山本秀行副学長
 後列向かって左から 秋山弘事務局長、室伏きみ子理事・副学長、廣中平祐非常勤理事、本田和子学長、山田勝重監事

なお、本田先生のご活躍は、お茶の水女子大学の改革や内外の女子教育の振興に留まらず、日本学術会議や国立大学の学長で組織される国立大学協会においても、異なる領域の研究者や学長・総長の方々に、様々な影響を及ぼしました。当時、国立大学の女性学長は、本田先生（専門：児童学・子ども学）

と、奈良女子大学の丹羽雅子先生（専門：被服学）のお二人だけでした（丹羽先生が初めて国立大学の女性学長となられ、本田先生が2人目でした）が、そのお二人の存在感は大きく、政府の審議会や産官学の研究会などでも引っ張りだこでした。私も度々、本田先生にお供しましたが、先生の自由闊達な発想に接した各大学の学長・総長や研究者の方々に本田ファンが多かったことも良く理解できます。

本田先生のもと、お茶の水は特色ある教育と研究を推進し、社会からの期待に応えるために、様々な改革案を実行に移していきました。その中で、私自身が関わった主な事業として、それまで日本にはなかった「遺伝カウンセラー養成課程」を大学院（前期・後期）に創設したこと、社会の科学リテラシーの向上と理科教員の資質向上のための「サイエンス&エデュケーションセンター（SEC）」を設置したことが挙げられます。本田先生は私の提案に対して、「意義あるお仕事だと思うから、思う存分やってごらん下さい」と仰って下さいました。勿論、他の方々のご提案にも、同様に対応していらっしゃいました。

遺伝カウンセラー養成については、日本学術会議の会長等を務められた金澤一郎先生（故人）や黒川清先生に後押しして頂き、遺伝医療がご専門の齋藤加代子先生をはじめとする東京女子医科大学の先生方から全面的なご協力を頂いて、2003年に、本学保健管理センター長の森田寛（ゆたか）先生を専攻長として、大学院に養成課程（前期課程2年＋後期課程3年）を立ち上げることができました。学内の遺伝学・生命科学・心理学・臨床心理学・社会学・倫理学等の教員の方々が兼任教員として参加して下さい、複数の大学や病院で遺伝医療に従事されている医師の方々のご協力も得ることができました。アメリカやドイツの養成課程のカリキュラムを基礎に、充実したカリキュラムも用意でき、さらに、文部科学省の『科学技術振興調整費：新興分野人材養成』事業に応募して、2004年から毎年1億円、5年間の支援を頂くことができたことから、当時、遺伝カウンセリングの重要性を発信していた大阪府立看護大学の千代豪昭（ひであき）先生をはじめ、人類遺伝学、生命科学、心理学、カウンセリングを専門とする7名の方々に、専任教員として着任頂くことができました。千代先生は、その後、関係学会による「認定遺伝カウンセラー制度」構築の牽引役としても活躍されました。

第一期生は5名でしたが、使命感をもって入学して来てくれた学生ばかりで、教員たちと共に「新しい分野を切り拓くのだ」との意気込みで、頑張ってくれました。その後20年を経て、現在までに86名の卒業生を社会に送り出しました

が、そのうち70名が認定遺伝カウンセラーとして登録しています。全国25大学院の養成課程を修了した登録者304名中の23%が、お茶の水の卒業生です。また、5名が認定遺伝カウンセラー指導者資格を有して居り、日本の遺伝カウンセリング領域の牽引役となって、活躍してくれています。

さらに、社会における遺伝リテラシーの向上を図ることと、卒業生たちの就職支援のために、金澤一郎先生に理事長にご就任頂いて、2010年に、NPO法人『遺伝カウンセリング・ジャパン』を設立しました（<http://www.npo-gc.jp/org/index.php>）。このNPOには、2023年現在、遺伝カウンセラー養成課程（25大学中24大学）の主任教授の方々や、日本の遺伝医療の発展にご尽力下さる方々が会員として加わって下さっています。また、本専攻で専任講師を務めていらした滝澤公子さんが長く事務局長を引き受けて下さり、活動を続けて来ました。金澤先生が逝去された後に、私が理事長を引き継ぎましたが、遺伝医療の著しい発展に伴って、現在、卒業生たちは引っ張りだこの状況ですので、今後の活動については、見直しの時が来たと感じています。

サイエンス&エデュケーションセンター（SEC、昨年度からサイエンス&エデュケーション研究所・ISEとなりましたが、ここではSECと呼ばせて頂きます）は最初、日本学術会議との連携事業として活動を開始しましたが、文科省からも支援を頂き、2004年から、社会の科学リテラシー向上と優れた理科教員養成、子ども達に向けた文科省の科学教育プログラム（SPP, SSHなど）への協力を続けて、社会から高い評価を得て来ました。また、2011年の東日本大震災を機に開始した、自然災害被災地の小・中学校における理科教育支援の活動は、千葉和義センター長をはじめ、SECメンバーの方々のご努力で12年に亘って続けられ、大きな実績を挙げています（<https://www.cf.ocha.ac.jp/archive/sec/>）。被災地の学校や教育委員会、自治体からも信頼を寄せられて、お茶の水の看板事業のひとつとなっています。

そんな日々をご一緒に過ごし、私の学長任期中にも様々なお教え頂いていた本田先生が、2023年2月12日に92歳で逝去されたことは、痛恨の極みです。本田先生のご冥福を心からお祈りすると共に、これまで頂いたご恩を忘れずに、先生が導いて下さった道を歩んでいきたいと思っています。なお、日本学術会議の機関誌「学術の動向」に、本田先生の追悼文を掲載して頂きました（第28巻第4号2023.4月発行）。近く科学技術振興機構（JST）のJ-STAGEにも公開されるそうです（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/tits/-char/ja/>）。

育てて頂いたお茶の水のために何が出来るか？

12歳でお茶の水の校門をくぐってから、附属中学校・高等学校の生徒として6年間、学部と大学院修士課程の学生として6年間、そして、東京大学や米国留学などでの12年の修業(?) 経験を経て、35歳で教員としてお茶の水女子大学に戻ってから学長を退任するまでの38年間を、お茶の水のキャンパスで過ごして来ました。合計50年に亘る時間は、私の人生の3分の2、それまでの146年のお茶の水の歴史の中で、3分の1強に当たります。何も知らない子どもだった頃から、大好きな先生方や友人たちとの関わり合いの中で育てて頂き、楽しく勉学や多様な活動に勤しんで来られた私は、とても幸せでした。

附属の生徒だった頃に、先生方からお教え頂いた多くのことが、今も私の心の中に根付いています。特に、12歳の私たちに先生方がお話し下さったことの中で、「皆さんは国民の税金を使って教育を受けているのですから、将来は社会に役立つ人になって下さい」「誰も見ていないところでも、恥ずかしくない行動をとりなさい」「人を見かけで判断してはいけません」「いつも心を磨くことを忘れない様に」などの言葉が今でも思い出されます。理系・文系共に、同窓生の女性の先生が多い環境で、先生方はいつも美しい言葉で、私たちを導いて下さいました。



その後いろいろな経験を経て、2015年4月に学長に就任しました。今野美智子先生、小川温子先生、松浦悦子先生、近藤み先生、西川恵子先生をはじめとする理学部の女性教員の方々や本田先生のお手伝いをしていた頃からご一緒させて頂いていた方々、附属学校の先生方、また、若い頃からお世話になっていた事務の方々から、大変力強いご助力を頂いたこともあり、私がお茶の水で幸せな日々を過ごすことが出来たことへの感謝を込めて、学生・生徒・園児の学びの環境を整え、心から協力して下さる教職員の方々の働く環境を向上させるために、私が出来ることが何でもしようと決心しました。ただ、学長任期の間は、自分自身のライフワークである研究と社会活動の多くを封印しなければなりませんので、実は、かなりの決断が必要でした。

以下に、多くの方々に助けて頂きながら、実現することができた事業、特に力を入れて来た財政改革について、ご紹介したいと思います。

教職員の削減を抑制することは喫緊の課題

毎年の国からの予算の削減によって、法人化後11年を経て、私が学長を引き継いだ2015年には、国から配分される予算はほぼ11%減っており、法人化前には240人だった専任の大学教員が180人に削減され、事務職員も20%近く減少していました。老朽化する施設等の改善のための費用の多くも、法人化前の様に、国から配分されるわけではありませんし、消費税や物価上昇の影響も少なくありません。また、社会的な問題としての「いじめ」や子ども達の精神的な問題、教員の働き方改革など、様々な課題が山積する中で、附属学校のための予算も、毎年の大学全体の予算削減に伴って減るばかりです。実際には、附属関係の人件費等は法人化前よりも増加していましたので、法人化後の10年間は、年々減少する予算の穴埋めを、大学の人件費の削減で賄うしかなかったのです。どうしても必要な授業は、非常勤講師を配置することで賄っていると言った状況でした。

ただ、想像に難くありませんが、専任の教職員が減少することの弊害はとても大きく、学生達への研究指導や生活指導にもマイナスの影響を与えていました。一部の学生達から、「大学院に進学したいのだけれど、先生が少なくなってしまうので、やりたいことが出来ないの、他大学の大学院に進学したい」と相談されることも2度や3度ではありませんでした。若い優秀な教員たちが、他大学に引き抜かれてしまう状況も生まれていて、大学機能の低下は、目に見えるところまで来ていました。

学長就任時の所信表明で「これ以上人員削減はしません」と宣言した際に、そんなことは無理だという教員たちも少なくなかった様ですが、出来ないという選択肢はなく、教職員の減少をストップさせることが喫緊の課題でした。

「オールお茶の水」体制の構築とその成果

学長就任と同時に、教育と研究の質を下げないために、財政基盤を構築するための活動を開始しました。まず、大学と附属学校園との協働体制の確立と、各同窓会との連携を推進することから始めることにしました。後述しますが、国の有識者会議から「国立大学附属学校不要論」が声高く言われる中でもあり、附属学校園と大学とが手を携えて、母校の充実・発展を図ることが必須でした。附属の教員の中には、「人氣の高い学校園なのだから、独立しても十分にやっていける」という意見もありました。しかしながら、独立した場合には、それまでに国から大学全体に配分されてきた運営費交付金が

らの附属への配分はなくなります。人件費も物件費も、その他さまざまな資金も自前で用意しなければなりません。建物も設備も大学から借用することになり、光熱費なども捻出しなければなりません。とても独立してやっていける可能性はありませんから、大学附属としての意義を社会に訴えて、その立場を守る必要でした。

そんな状況でしたので、学校園の各種行事や教育活動の現場に参加することが、課題の洗い出しと解決方法の検討に役立つと考え、新型コロナウイルスの感染が拡大する迄は、附属学校園の各種行事にはほぼ全て参加させて頂きました。そういった経験をする中で、附属の教育の質の高さを実感すると共に、公教育において附属が果たしている役割を社会に向けて発信するための方策を検討することができました。

並行して、公教育に資する教育・研究の場の整備と多様な課題に対処する取り組みを進めるために「附属学校担当副学長ポスト」を新設し、大学本体との連携・協働の強化と附属の教育研究の成果を社会に発信するための教材研究のデータベース作りなどを進めて頂きました。初代の真島秀行教授も二代目の千葉和義教授も、附属学校園の存続とさらなる発展のために誠心誠意ご努力下さり、その結果として、お茶の水のみならず、国立大学の附属学校園の存在意義を社会に向けて発信することができました。国立大学長の集まりである「国立大学協会」でも、正面から附属問題を取り上げたこともあり、附属が価値ある存在として活躍し続ける上で、お茶の水の附属がモデルとなりました。お二人のご尽力に、心から感謝しています。



同窓会の皆さまとは、あらゆる機会を捉えて、お会いしてお話しさせて頂き、大学と同窓会との相互の繋がりを明確化するために、附属学校担当副学長に加えて「同窓会担当副学長ポスト」も新設して、同窓会と学校園との関係強化を図りました。

さらに、2015年11月の創立140周年記念式典を契機に『未来開拓基金』を創設し、全ての同窓会やご関係の皆さまに、本学を応援して頂くためのご寄付をお願いしました。「国立なのに、何故寄付が必要なのか」などのお尋ねもありましたが、丁寧に説明することで、国立大学が置かれた厳しい状況をご理解頂くことができました。この大変な時期に、私が附属出身の初の学長であったことも、「オールお茶の水」の皆さまのご理解とご協力を頂く上で、幸運なことだったと思っています。

そうした経緯を経て、桜蔭会、作楽会、鏡影会、茗鏡会、ちぐさ会の皆さまから、温かなご支援とご協力を頂き、未来

開拓基金へのご寄付だけでなく、学生たちの奨学金や修学支援のためのご寄付も賜われることができました。皆さまからのご芳志のお蔭で、毎年多くの学生たちが、それぞれの夢を実現するために、勉学に励むことができて居りますことに、心から感謝申し上げます。



なお、同窓生の方々を中心とする未来開拓基金へのご寄付は、私の任期中に、約3,900名、26.5億円に上りました。そのうちの約14億円は「同窓会コモンズ」を併設する「国際交流留学生プラザ」の建設資金として頂いたご寄付で、約9.5億円が同窓生の方々からのご遺贈です。未来開拓基金以外にも、様々な用途を指定したご寄付もお寄せ頂いて居り、皆様のお蔭で、長年に亘って滞っていた様々な事業を遂行することができました。

例を挙げますと、①第二次大戦中に軍に供出させられた大学正門・門扉の復元、②附属図書館の増改築への補助、③起伏の多いキャンパスを移動するための屋外エレベータ棟の建設などキャンパスのバリアフリー化、④「同窓会コモンズ」を併設した「国際交流留学生プラザ (Hisao & Hiroko TAKI PLAZA)」の建設、⑤附属高等学校校舎の改修に伴う特別教室の設置とインターネットテクノロジー (IT) 環境の整備、⑥理学部一号館改修に伴う現代的な教育環境の整備、⑦板橋 (大山) の学生寮の老朽化・廃止に伴う新学生寮の建設 (学内に450名規模の学生寮を建設) などを実現させることが出来ました。また、ダイバーシティとサステナビリティに配慮したキャンパス整備に関して、皆さまからのご寄付を活用させて頂き、さらに、附属高等女子学校の卒業生の方からの数億円に上るご遺贈を基に、優れた人材の招致と、文理と芸術の融合による新たな工学部の設置や、いくつかの国立大学との連携による「性差に基づく多様なイノベーション (ジェンダード・イノベーション)」を進展させるための研究センターの設置に向けて、準備を進めることができました。これらの事業には、内閣府、文科省、経産省からも期待が寄せられています。



これらの中で、同窓生の皆さまからは、正門門扉の復元や、同窓会コモンズを併設する国際交流留学生プラザの建設を、とてもお慶び頂きました。正門門扉は、古い写真と図面しか残されていなかったのですが、国立科学博物館のシロナガスクジラをはじめ多くのモニュメントやオブジェの制作実績のある『やしま製作所』さまのご厚意で詳細な設計図を起こして頂いたことから、現在の様な素晴らしい門扉が出来上がりました。

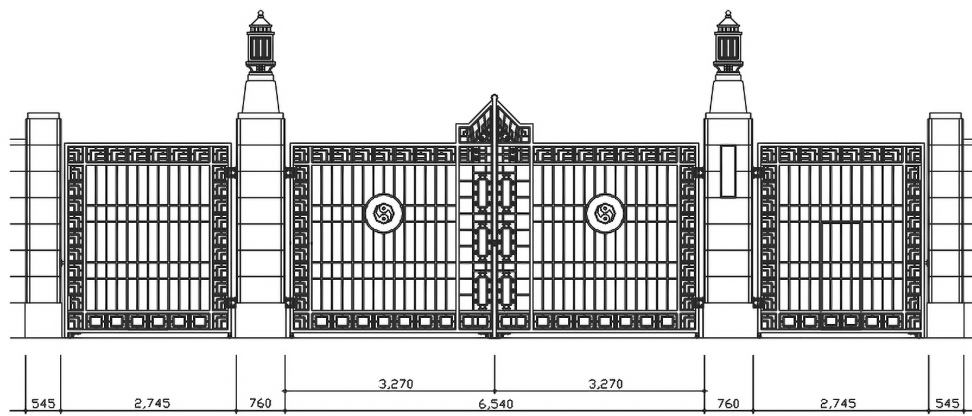
● 旧・正門門扉



● 復元完成式典の様子



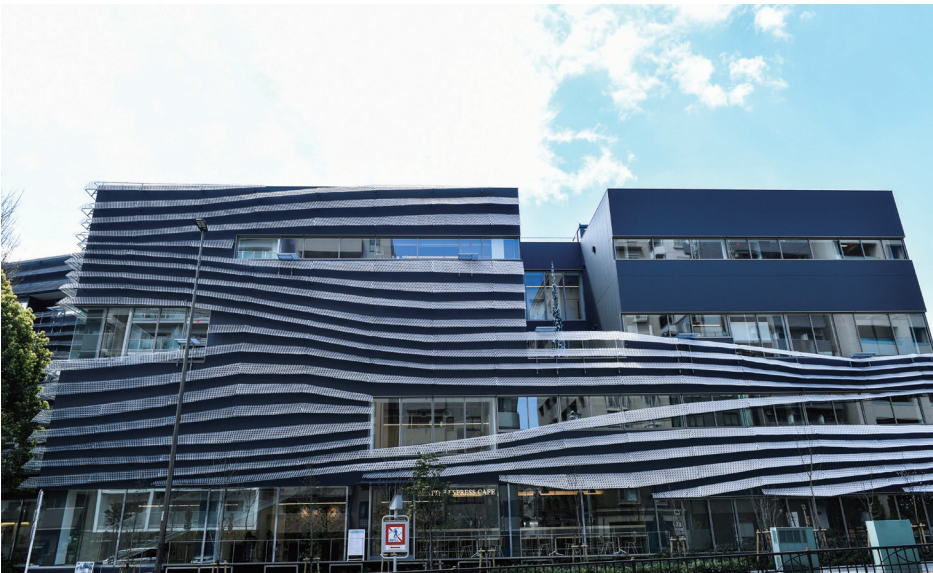
● 復元図



国際交流留学生プラザの建設は、1980 年前後から、長い道のりを経て、多くの方々のお骨折りによって実現できた事業でした。最終的には、滝久雄さまご夫妻と同窓会の皆さまからの多額のご寄付によって、隈研吾氏設計の建物が出来上

がり、美しい芸術作品（宮田亮平氏による「シュプリングン」、中島千波氏の原画による「櫻花爛漫」、日比野克彦氏による「レッツ 3 つの色」）が設置されました。プラザ建設までの経緯につきまして、桜蔭会報「Ochanomizu ヒストリア」

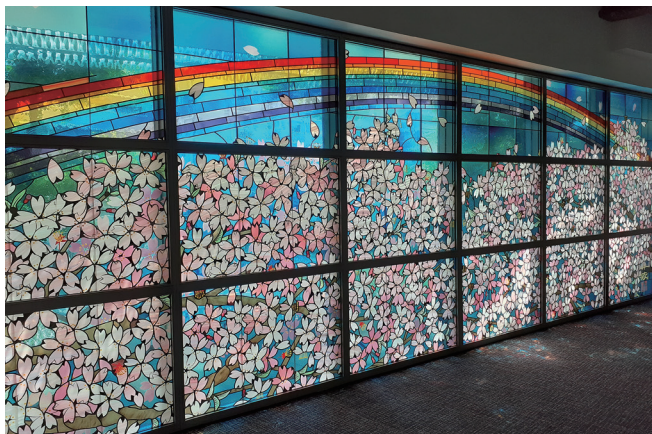
● プラザの全景



● シュプリングン



● 桜花爛漫



の第一回（復刊 262 号 2021.9.1 発行）で、詳しくご紹介させて頂きましたので、ご興味がおありでしたら、お読み頂けると嬉しいです。

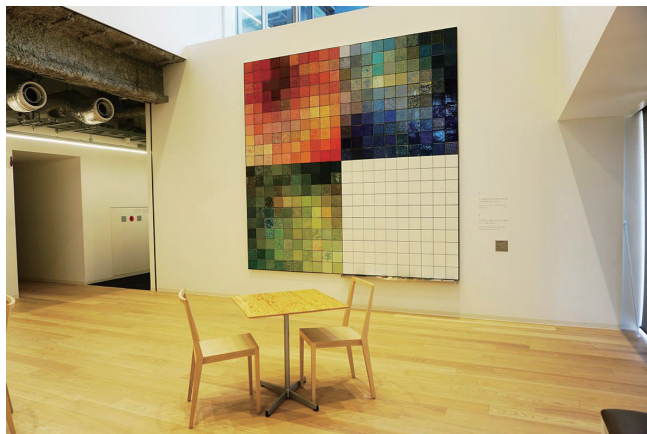
多様な方々の知見を活かした 「大学経営健全化モデル」の構築

学術研究を進める上で、社会からの理解増進や社会との連携が重要であると考えていましたので、学長就任前には、日本学術会議や民間の研究会、政府の審議会などで、多様な知見をお持ちの方々と一緒に活動させて頂いて来ました。また、ブリヂストン（株）における社外取締役の経験や、NHK での経営委員・監査委員の経験を通じて、貴重なネットワークを創ることができましたので、学長就任後は、その方々のお智慧とお力を存分にお借りしました。そして、安定的な法人経営のために、コンサルタント会社や信託銀行などのご協力も得て、法人資産の売却・廃止、定期借地権の設定などの手法を取り入れ、自己収入を確保するための活動を積極的に進めました。事務方の皆さまがとても活気づいて、ご尽力下さったので、スピード感を持って仕事を進めることが出来ました。

具体的には、毎年約 1,100 万円の赤字が出ていて、老朽化のためにさらに 1 億円以上の経費が掛かることが予想された志賀高原の体育運動場を廃止し、使用頻度が低くなっていた東村山市の郊外園の一部を市の公園予定地として 9 億円で売却する契約を結びました。

また、就任当初に当時の教育担当の高崎みどり理事・副学長（現・桜蔭会長）と、老朽化した板橋区の学生宿舎を調査に行き、学生たちとも意見交換を行いました。専門家の意見もお聞きして、このままの状態を続けていくには安全性を確保できないと判断しましたので、その廃止と、学内に新たな学

● レッツ 3 つの色



生宿舎を建設することを決めました。全く予算のない中での計画でしたが、文科省との相談に加えて、学外理事と学長特別顧問をお務め下さった江澤雄一さまや、学長特別顧問をお願いしていた小野俊彦さまが財務省や総務省との相談にご協力下さり、また、民間企業の方々のお力添えも頂いて、板橋の跡地に定期借地権を設定することを決定し、活動を開始しました。就任後間もなく文科省へ相談に行った際には、定期借地は 30 年しか認められないとのことでしたので、とてもそれでは借りて下さる民間企業はありませんでした。その後、何度も文科省等との相談を重ね、他大学にも協力をお願いすることで、75 年の長期に亘る定期借地を認めて頂くことができました。なおこの事業の成果として、土地貸付に伴う収入は 75 年間で約 110 億円に上りますので、学内に 450 人規模の学生宿舎を建設すると共に、75 年間に亘って安定的な収入を得ることもできるようになりました。私の任期中の竣工には間に合いませんでしたが、ほぼ 6 年に亘る、江澤さま、小野さま、各省庁の皆さま、コンサルタント会社等の皆さまのご協力と、当時の施設課及び会計課の方々のご尽力で、学生たちの要望に応えた安全で快適な宿舎づくりが実現できたと思っています。



法人化前後の本田学長による大きな改革から 10 年を経て、私自身が学長に就任してからは、学内外の多くの皆さまにご相談させて頂き、その方々の大きなご助力によって、多様な事業を達成できた 6 年間でした。お助け下さいました方々の温かいご支援を忘れてはならないとの思いから、皆さまのお力で達成できた主な事業について、以上にご紹介させて頂きました。

お茶の水のため、日本と開発途上国の女子教育のためにと、ご尽力下さいました皆さまに、心からの感謝をお伝えしたいと思います。有難うございました。

夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたNPO法人4団体によって進められている事業です。

3年にわたる新型コロナウイルス感染症の流行により、夢のつばさでも2020年以降、宿泊行事を実施することができないまま現在に至っています。2022年度は、3月の最終土曜日(2023年3月25日)になって、ようやく久しぶりの対面行事「2023春の交流会」を実施することができました。これは「2021冬の交流会」以来です。

学生スタッフも、ここ数年企画立てがなかったために、段取り一つ一つに手間取り、せっかくの交流会の募集の広報が間際になってしまいました。いつも顔を見せてくれるメンバー数名から、「アルバイトや先約が変更できず欠席」の連絡が入ったことが残念でしたが、仙台市民会館を会場に、子ども7名、学生・OBOGスタッフ8名、事務局1名が参加しました。また今回は、以前よりイベントに直接参加したいと願っておられた支援者の方に、社会人スタッフとしてご一緒いただくことができました。

今回の春の交流会では、まだコロナに気を緩めないように昼食は済ませてから集まり、体を動かして大きな声を出すようなアクティビティは避けて、マスクをして参加することにしました。学生たちは、初めて交流会に参加するスタッフと子どもたちが仲良くなること、久しぶりに対面で会うスタッフと子どもたちがたくさん話をするを狙いとして計画を立てました。

最初に全員の自己紹介と近況報告をした後、まず、「パートナーを探せ」というレクリエーションを行いました。事務局スタッフも支援者も、OGOBたちに交じって参加しました。一人一人の背中に単語が書かれた紙を貼り、周りの人と話してヒントをもらいながら、自分の背中の単語を予想します。そして「紅茶」と「コーヒー」、「海」と「山」、「仙台」と「東京」など、自分の背中の単語とペアになる単語が貼られているパートナーを見つけるというゲームです。直接的な言葉は使わずに背中の単語を本人に教えようと試行錯誤しながら楽しくコミュニケーションをとっていました。

ゲームで気持ちがほぐれたら、4人ずつのグループを作り

「すごろくトーク」をしました。すごろくのマス目に「最近気になること」とか「得意なこと」、「譲れないマイルールは？」などの様々なトピックが書かれてあり、サイコロを振って止まったマス目に書かれたトピックについて自由に話をするレクリエーションです。初めてのスタッフも顔見知りの子どもたち同士もすぐに打ち解けて、警戒心なく自分の気持ちを話することができて、すぐにいつもの夢のつばさの仲間たちの雰囲気に戻ったのはうれしいことでした。

参加したのは中2から高2までの子どもたちで、みな驚くほど背が伸びて、ファッションやヘアケア商品に興味を持つ女子も多く、とても大人っぽくなっていました。ふざけてばかりで落ち着かない印象のあった男子がすっかり体も大きくなって口数が少なくなっていたり、男子大学生スタッフの背を追い越した男子もいましたが、それでも社会人やOGOBたちの声掛けに、にっこりしながら次のイベントにもぜひ参加すると話してくれて、新しい学生スタッフもとても感激していました。支援者の方からも、「参加できてとてもよかったです。学生スタッフがすべて考えて仕切って、それを事務局が支える様子に感心しました。子どもたちの笑い声に救われる思いがしました。ありがとうございました。」という感想をいただきました。

夏に向けてコロナの推移の見極めが必要かと思いますが、ぜひとも子どもたちが待ち望む宿泊行事を再開したいと願っています。今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。

(夢のつばさ♥プロジェクト)



コピー用紙で高さを競うゲーム

【口座】三井住友銀行 大塚支店(店番号 227) 普通 1284200

【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子 ※ 夢のつばさ♥プロジェクトの専用口座です。

※ 恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

連絡先: 事務担当 滝澤公子 TEL&FAX: 03-5978-5362 E-mail: tsubasa@npo-ochanomizu.org

お茶大女性リーダー育成塾：^{き いん じゅく} 徽音塾 2023 年度



社会人向け
講座

詳細と各申込は、徽音塾Webサイト <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/> をご覧下さい。

※「きいんじゅく」で検索可能です。

2023 年度は、女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座 (E)、お茶大プロフェッショナルレクチャー (P)、ビジネス講座 (B) 各 6 科目です。

2023 年度 開催概要

時 間	13:30 ~ 16:40 (すべて土曜日)		
形 式	原則的には Zoom を使うオンライン講座 ※ PC での受講を推奨します ※ 1 科目から受講いただけます ※ 最新情報は Web サイト、Twitter を ご覧下さい。		
		Web	Twitter

【2023 年 7 月～2024 年 2 月開催の講座】

※ 1 科目から受講いただけます。

(P)	7/1	私たちと地球の健康 ～食から地球環境を考えてみよう～ (赤松利恵)
(P)	7/8	ジェンダー・イノベーションのすすめ ～多様性を包摂する社会の実現を目指して～ (佐々木成江)
(P)	7/15	生物の“多様性”から考える理想の未来像 (黒田智) *ハイブリッド(対面・オンライン)
(P)	7/22	「貧困とは何か？」を考えてみる (三宅雄大)
(B)	8/19,26	新規事業開発に効く！ イノベーション創出の知識と視点 (鹿住倫世)
(P)	9/2	〈健康〉と〈病い〉から読み解く近現代社会の課題 (宝月理恵)

(P)	9/9	グローバル資本主義とホームとしての地球 (グローブ) (水野勲)
(B)	10/21,28	文字・声・画像が創り出す印象とコミュニケーションへの応用 (内藤章江)
(B)	11/4,11	マーケティング入門 (神原理)
(B)	11/18,25	いちばんやさしい脱炭素社会 ～カーボンニュートラルの最前線～ (松田有希)
(B)	12/9,16	会計基礎力を身に付ける - 取引記録の仕組みと企業活動の成績表 - (櫻井康弘)
(B)	2/3,10	働くあなたを守る、知っておきたい労働法 (内藤忍)

【入塾料および受講料】

★ 2023 年度 入塾料 (税込) 初回申込時のみ必要となります。

お茶の水女子大学の卒業生・修了生 法人等団体からの申込	無料
その他 (上記以外の個人で申込の方)	1,100 円

★ 2023 年度 受講料 (税込)

(P) お茶大プロフェッショナルレクチャー 1 科目 7,700 円
(B) ビジネス講座 1 科目 15,400 円 ※2日間分

<お問合せ・連絡先>

お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾 事務局
E-mail : kiin-le@cc.ocha.ac.jp

徽音塾受講のすすめ♪

私は、社会人歴わずか数年、17 年間は子育て専業主婦。今はパートのおばちゃんです。

「リーダーの育成」とは全く無関係な私は、コロナ禍での閉塞感の中、ふと、「お茶大女性リーダー育成塾」参加の Google フォームを開きました。

参加申し込みに必要な「志望理由 400 字程度を入力」というミッションも、マスク越しでしか会話のできないストレス解消に、思わず饒舌にキーボードを叩いていました。

即、スタッフからの丁寧な心温まるメールを頂き、受講当日を迎えました。

すべてオンライン「Zoom」講義、3 講座 18 科目ありますが、1 科目ずつ開催日の数日前までの申し込みと受講料の振込を終えれば良いという形式。非常に受講しやすいと感じた仕組みでした。

初回は石井フツツ昌子先生による講義「女性の生活が楽になる女性学～忙しい中でも自分らしく～」でした。リーダーとは無縁の私にもぴったりの興味深いテーマでした。90 分 2 コマ、土曜日の午後。恐る恐る Zoom にアクセスして、顔出しミュートで参加。すると、画面には懐かしいお茶大の世界が広がっていました。

講義は身を乗り出して聞き入るほど興味深い内容。ブレイクアウトルームによる少人数グループでのおしゃべりタイム。さらに全体意見交換や質疑応答……。あっという間の 180 分でした。

学生時代の講義とは桁外れに違う。当時は、授業中の内職や睡眠、時として友情という名のもとでの代返やノートの貸し借り

(先生方ごめんなさい。もう時効ですよ)。徽音塾の講義には、学生当時には気づかなかった知的好奇心を掻き立てるものがありました。各講座、先生方より課題が出され、A4 サイズ 1 枚程度のレポートを 1 か月程の期限で提出します。このレポートこそ、日頃使わない脳みそを活性化させてくれました。講義内容を踏まえながら、今までの自分の経験を寄せ集め、自由気ままに文章で表現すると、意外に A4 の 1 枚がすぐに埋まっていきました。そして例の Google フォームでポチ！と提出。

初回講義の面白さに惹かれ、次々と申し込みをしていました。受講料振込の手数料節約のために 4～5 科目まとめて申し込んだこともあります。画面だけでの出会いですが、スタッフや受講生の方々とも次第に顔見知りとなりました。

1 年間に 13 科目受講して、3 講座の修了証と全体修了証を頂けることになりました。

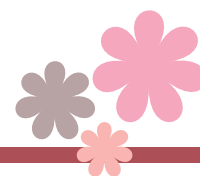
きっと、パートの仕事やこれからの人生をより豊かなものにしてくれる何かを得たことは間違いありません。

企業や組織で今現在活躍されている方も大勢受講されていましたが、同じ講義を聞いて一緒に考えていく過程では、様々な立場の人が思いを交わすことこそ、意義深いものがあると感じました。パートのおばちゃんも、楽しく女性リーダー！

ちょっと徽音塾のサイトを覗いてみませんか！

宇津木美恵子 (昭和 57 年生物学科卒 お茶の水学術事業会スタッフ)





お茶の水女子大学 イベント情報

2023年7月以降に開催される各種イベントのお知らせです。※ いずれも参加費は無料です。

OCHANOMIZU UNIVERSITY OPENCAMPUS 2023

【開催日】 7月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝)

★ 今年は対面開催(一部オンラインプログラムあり)となります。
★ 事前申し込みが必要となります。下記特設サイト内のフォームにてお申込みください。
https://www.ocha.ac.jp/web_oc/2023/

スケジュール		
7月15日(土)	午後	理学部 数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科
7月16日(日)	午前	生活科学部 食物栄養学科、共創工学部 人間環境工学科(仮称)
	午後	生活科学部 人間生活学科(生活社会科学講座、生活文化学講座)、心理学科、共創工学部 文化情報工学科(仮称)
7月17日(月・祝)	午前	文教育学部 人文科学科(比較歴史学コース)、言語文化学科(中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース)、人間社会科学科(教育科学コース)、芸術・表現行動学科(音楽表現コース)
	午後	文教育学部 人文科学科(哲学・倫理学・美術史コース、地理学コース)、言語文化学科(日本語・日本文学コース、仏語圏言語文化コース)、人間社会科学科(社会学コース、子ども学コース)、芸術・表現行動学科(舞踊教育学コース)、グローバル文化学環

開催日時	イベント・講座名	備考
7月1日(土) 13:30～16:00	第25回 国際日本学シンポジウム 「わたしにお茶大がくれたもの—あなたにとってはなんですか?—」 お茶大で何を学んだのか。それがどう活かされたのか。さまざまな場で活動する卒業生にうかがいます。 【問題提起】 加藤厚子、和田華子、芹澤良子 【パネル報告】 仲田 秀、丸田孝子、范 淑文、土屋由里子、原 容子(順不同)	【会場】 Zoom によるオンライン開催 【主催】 お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所比較日本学教育研究部門 【対象】 本学学生・教職員・一般 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/ 【申込み】 必要、HP内の専用フォームにて 【問合せ】 ccjs@cc.ocha.ac.jp
7月9日(日) 14:00～16:00	第1回 クイズから考える身のまわりのモノ・セミナー 【講師】 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程3名	【会場】 お茶の水女子大学 【主催】 お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】 女子中学生、保護者 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】 HP内の専用フォームにて 【問合せ】 ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
7月10日(月) 16:40～18:10	グローバルリーダーシップ研究所セミナー 「鏡のなかのわたし—グローバル社会を生きる女性たちへのメッセージ」 【講師】 黒沼ユリ子氏(ヴァイオリニスト)	【会場】 Zoom と対面(千葉県御宿町) 【主催】 お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 【対象】 本学学生、教職員、一般(事前登録制) 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/event/d012886.html 【申込み】 HP内の専用フォームにて 【問合せ】 IGL-seminar@cc.ocha.ac.jp
7月21日(金) 18:00～20:00	お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所主催 国際シンポジウム 「世界の幼児教育は、今～UNESCO/タシケント国際幼児教育会議の成果から」 【講演者】 林川真紀氏(ユネスコ本部 教育2030部門ディレクター) ロカヤ・フォール・ディワラ氏(ユネスコ本部 教育プログラム専門官兼グローバル幼児教育アドヴァイザー) 【モデレーター】 小玉 亮子氏(お茶の水女子大学基幹研究院 教授)	【会場】 オンライン 【主催】 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 【詳細】 https://www.ocha.ac.jp/event/d012974.html 【申込み】 https://forms.office.com/r/iNBgbKa3Vs 【問合せ】 info-iehd@cc.ocha.ac.jp
7月23日(日) 14:30～16:30	第4回 グローバル講演会 【講演者】 磯野江利香氏(コンスタンツ大学生物学科 教授) 伊藤瑛海氏(お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 特任助教)	【会場】 Zoom によるオンライン開催 【主催】 お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】 女子中学生・高校生、保護者、教員 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】 HP内の専用フォームにて 【問合せ】 ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
7月27日(木) 13:20～14:50	サマープログラム特別講演会 【講師】 キャロライン・ベントン氏(筑波大学 教授) *使用言語: 英語	【会場】 国際交流留学生プラザ2F 多目的ホール 【共催】 サマープログラム事務局 お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 【対象】 お茶の水女子大学学生(事前登録制)・Ocha Summer Program for Global Leaders 履修生(協定校生含む) 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/summerprogram/index.html 【申込み】 HP内の専用フォームにて 【問合せ】 ocha-summer@cc.ocha.ac.jp

開催日時	イベント・講座名	備考
8月5日(土) 1) 9:00～12:00 2) 14:00～17:00	第5回・第6回 陸の植物観察会 【講師】岩崎貴也氏(お茶の水女子大学理学部生物学科 講師)	【会場】お茶の水女子大学 【主催】お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】女子中学生 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
8月6日(日) 14:00～16:15	第3回 女子生徒の理系への進路選択支援を後押しするために 【講演者】 神戸佳子氏(東海大学児童教育学部 教授) 下島泰子氏(本学コンピテンシー育成開発研究所 特任准教授)	【会場】Zoomによるオンライン開催 【主催】お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】教員、保護者 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
8月26日(土) 13:30～15:30	第3回 ロボットプログラミングセミナー 【講師】お茶の水女子大学学生数名	【会場】お茶の水女子大学 【主催】お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】女子中学生 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
8月27日(日) 14:00～15:30	第40回 リケジョ - 未来シンポジウム 【講演者】 保坂玲氏(株式会社デンソー) 古屋桃香氏(文部科学省)	【会場】ハイブリッド(お茶の水女子大学本館306室 & Zoom) 【主催】お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】女子中学生、高校生、保護者、教員、女子大学生・大学院生 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
9月10日(日) 14:00～15:30	第6回 座談会 リケジョのガールズトーク 【講師】お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程3名	【会場】Zoomによるオンライン開催 【主催】お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】女子中学生 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
9月24日(日) 14:00～15:30	第3回 フロントランナーセミナー 【講演者】 森初果氏(東京大学動物研究所 教授) 丸山千秋氏(東京大学 副学長)	【会場】Zoomによるオンライン開催 【主催】お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対象】女子中学生・高校生、教員、保護者、女子大学生・大学院生 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp

2023年度 ブータン連続セミナー

【形式】Zoomによるリアルタイム配信

【主催】グローバル協力センター、日本ブータン研究所

【対象】お茶の水女子大学関係者・一般

【問合せ】

グローバル協力センター講師 平山雄大

E-mail: hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

※開催時間はすべて、13:00～15:00です。

開催日時	イベント・講座名	備考
2023年 7月14日(金)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ^{③④} 」—『地球千年紀行 先住民族の叡智に学ぶ』『ブータン王国 世界が目注する幸福王国』(2011年)—	【詳細】 http://www.bhutanstudies.net/21679/ 【申込み】 https://bit.ly/3nFxw3d
7月29日(土)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ^{③⑤} 」—『地球・ふしぎ大自然スペシャル』『ヒマラヤに潜む伝説の動物 大追跡! 密林から天空の楽園へ』(2002年)—	【詳細】 http://www.bhutanstudies.net/21680/ 【申込み】 https://bit.ly/3m2w9Li
8月12日(土)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ^{③⑥} 」—『DW Documentary』『Bhutan: The Dictator ship of Happiness』(ドイツ・2021年)—	【詳細】 http://www.bhutanstudies.net/21681/ 【申込み】 https://bit.ly/41c1XfZ
9月8日(金)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ^{③⑦} 」—『Deadliest Roads』『Bhutan:Happiness at All Costs』(ドイツ・2018年)—	【詳細】 http://www.bhutanstudies.net/21682/ 【申込み】 https://bit.ly/3lYKR62
10月13日(金)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ^{③⑧} 」—『The Mysterious Country of Bhutan, Where Earth Meets Sky』(韓国・2014年)—	【詳細】 http://www.bhutanstudies.net/21683/ 【申込み】 https://bit.ly/3zoh89J
10月28日(土)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ^{③⑨} 」—『Bhutan: The Road To Happiness』(デンマーク・2011年)—	【詳細】 http://www.bhutanstudies.net/21684/ 【申込み】 https://bit.ly/3zpDqRL

桜蔭会よりご案内

桜蔭塾

懐かしいお茶大の先生方や、桜蔭会会員の方を講師に迎え、オンラインでお話を聴く、会員と在学生のための学びの場です。

- ・募集人数：先着 100 名まで（各講座）
- ・受講料：講座によっては有料講座もございます。
- ・詳細：<http://www.ouinjuku.com/>



開催日時	講師	テーマ
7月29日(土) 14:00～15:30	上垣内伸子氏 (十文字学園女子大学 教授)	「乳幼児期からの子どもの権利について考えてみませんか」
9月30日(土) 14:00～15:30	田口知子氏 (鍼灸師・桜蔭会 会員)	東洋医学で毎日イキイキ～タイプを知ってセルフケア～

お茶大（水村研究室）とコラボ企画

桜蔭塾 「オンラインダンス教室」

月1回 火曜日 11:00～12:00

気楽に、楽しく身体を動かしてみませんか？

参加費無料 / どなたでも / 日程・詳細は桜蔭塾 HP で



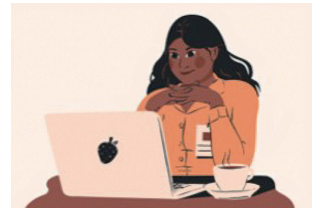
就活応援・「ZoomでOG訪問」
学生さんお申し込み&OGアドバイザー募集中！

新規アドバイザー登録大歓迎！

お茶大を卒業した先輩に就活や入社後のことを聞いてみませんか？

【登録のOGアドバイザー】

編集者・美術館学芸員・弁護士・文系研究職・理系研究職・国際機関職員・一般企業・公務員・キャリアコンサルタント など



学生OG訪問
お申込み



OGアドバイザー
ご登録



お茶の水学術事業会事務局よりお知らせ

1. 2022年度 活動報告

(1) 教育・研究活動に関する事業

① 国内学会の企画運営、国際学会等の準備事業

- ・事務代行業務（12 団体）

② 学術・調査・研究・教育等の活動運営支援事業

- ・講演録作成（3 件）
- ・HP 作成・管理請負（2 件）
- ・イベント情報のメール配信（5 件）
- ・「夢のつばさ♥プロジェクト」

(<https://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/>)

③ 学術・調査・研究・教育等の活動運営支援事業

- ・講演録作成（3 件）

(2) 男女共同参画社会のための啓発事業

① 機関紙（誌）、教育・研究等に関する啓発書の発行

- ・会報「ellipse」第 58 - 60 号発行
- ・お茶の水ブックレット販売

② ホームページの開設・運営

<https://www.npo-ochanomizu.org/>

2. ご入会・ご寄付 ※随時受け付けております。

○ 会員区分と会費額

一般（正会員／賛助会員）	年会費 1 口 6,000 円 1 口～
終身（正会員／賛助会員）	入会時のみ 50,000 円 (70 歳以上の方)
法人会員	年会費 1 口 30,000 円 1 口～

※正会員には議決権があります。

○ 会費・ご寄付のお振込先

【振込先】ゆうちょ銀行（郵便振替口座）

【口座番号】00100-3-583029

【口座名義】特定非営利活動法人お茶の水学術事業会

※所得税の寄付金控除の対象にはなりません。

※ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所（連絡先）をお知らせください。

3. 2023年度 講演等の共催事業・助成金事業の受付

2023年10月1日～11月30日

- ・詳細は 2023 年 7 月より HP に公開する予定です。

【ご連絡・お問合わせ】

お茶の水学術事業会事務局 Email : info@npo-ochanomizu.org TEL : 03-5976-1478 (月～金 10時～16時)

編集
後記

室伏先生のご寄稿は、内容もさることながら繰り返される感謝の言葉が印象的でした。微音塾の受講レポートは「思い立ったが吉日」という言葉を改めて思い出させてくれました。「あつという間に1年が過ぎてしまう」と嘆く前にできることがあります。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は 2023 年 10 月に 2500 部発行予定です。会員の皆様ははじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1 回につき 20,000 円。詳しくは下記までお問合わせください。

事務局

OPEN 月～金 10:00～16:00

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3 号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : info@npo-ochanomizu.org
<https://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合わせの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地

東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分
地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分
都バス
大塚2丁目バス停すぐ